

第七 平明丸事件顛末

SP. 265

89

平明丸事件顛末

一、本事件ノ發端

勝田汽船會社汽船平明丸ハ帝國政府ノ命ヲ承ケ西比利亞ニ在リタル土耳其俘虜等千十三名（非戰鬪員、婦人及小兒ヲ含ム）ヲ搭載シ君府ニ向ケ航行中大正十年四月五日地中海ニ於テ希臘海軍ノ爲停船ヲ命セラレ「ミテイレーン」島ニ右俘虜ヲ上陸セシムヘキコトヲ要求セラレタルカ同船乗組ノ帝國監督將校之ニ應セサリシ爲「ピレウス」港ニ拉致抑留セラレタリ

二、希臘政府ニ對スル第一次交渉

右希臘政府ノ措置ハ希土兩國間ニ交戰狀態ノ存在スルコトヲ理由トスル處希臘及「アングラ」政府間ニハ大正八年十月以來事實上

ノ交戦状態存シ居タルモ「アンゴラ」政府ハ土耳其ノ地方的事實
上ノ政府タルニ止マリ從テ之ヲ以テ希土兩國間ノ戦争ト目スルコ
トハ少クトモ疑義アルノミナラス元來土耳其俘虜ノ君府輸送ハ英
國政府數次ノ委囑ニ基キ人道的見地ヨリ帝國政府ニ於テ種々ノ困
難ヲ排シ之ヲ引受ケ土國有志家ノ贈金四萬八千磅及我國自ラ負擔
シタル金五萬七千磅ヲ以テ勝田汽船會社ヲシテ輸送ノ任ニ當ラシ
メタルモノニシテ「アンゴラ」政府間ノ關係ニ干渉
スルノ意志ニ出テタルニアサルヲ以テ帝國政府ハ直ニ希臘政府
ニ對シ平明丸及搭乗俘虜ノ無條件解放ヲ要求シタルカ希臘政府
ハ日本政府カ英國政府同意ノ下ニ當該俘虜カ抑留場所ヨリ逃亡ス
ルコトヲ事實上不可能ナラシムルニ十分ナル保障ヲ與フル條件ニ

外 務 省

(目録用紙)
(E 號用紙)

テ君府ニ上陸セシムルコトニ同意スル旨並同政府ノ所見ニ依レハ
右目的ヲ達スル最良ノ手段ハ俘虜ヲ君府ニ抑留シ戰鬪終熄ニ至ル
迄之ヲ同盟側軍事官憲ノ監督下ニ置クニ在ルヘキ旨ヲ回答シ來レ
リ仍テ帝國政府ハ英佛伊三國政府ニ對シ在君府軍憲ニ於テ土耳其
俘虜ノ監視ニ協力スル様取計方ヲ依頼シタルモ君府ニ於ケル俘虜
監視ハ事實上ノ困難アリシ爲三國共我依頼ニ應スルニ至ラサリキ
三、希臘政府ニ對スル第二次交渉

然ルニ會ニ在君府日本高級委員ハ勃爾牙利船「キリロス」號力會
テ勃國ニ在リタル土耳其人百五十九名（大部分ハ「アドリアノー
ブル」ニ於ケル Jafar Pazar ノ敗軍ニシテ國境ヲ超エテ勃爾牙利ニ
入リシモノ）ヲ乗セ君府ニ向ケ航行中大正十年四月十八日黒海

外務省

SP. 265

92

(白 封 用 紙)

(白 封 用 紙)

Kara-Baurgas 沖ニ於テ希臘水雷艇ノ爲「イスミツド」ニ一致抑留セ
ラレタルカ其後無條件ニテ解放セラルルコトナリタル旨ヲ聞込
ミ其ノ例ニ倣ヒ在君府休戰委員ヲシテ平明丸搭乗土耳其俘虜ニ對
シ君府歸還許可書ヲ發セシメ希臘高級委員ヲ經テ同國政府ニ對シ
平明丸ノ無條件解放方ヲ交渉シタルカ希臘政府ハ「キリロス」號
搭乗土耳其人ノ解放ヲ命シタルハ其ノ人員僅ニ百五十九名ニ過キ
サルト其ノ皆非戰闘員ナルトニ因ル旨並希臘政府ハ平明丸ノ即時
出帆及搭乗非戰闘員ノ希臘出發ヲ許可スヘキモ土耳其俘虜ニ付テ
ハ抑留ノ已ムナキ旨回答シ來レリ

四希臘政府ニ對スル第三次交渉

然レトモ「キリロス」號搭乗ノ土耳其人中ニハ「アドリアノープ

外 務 省

SP. 265

93

(已 號 用 紙)

(日 號 用 紙)

ル」解散軍人ヲ含ミ從テ平明丸及「キリロス」號ノ二事件ハ全條
同一條件ノ下ニ在ルモノト認メラレタルヲ以テ我高級委員ヲシテ
希臘政府ニ對シ重ネテ平明丸及土耳其俘虜ノ無條件解放ヲ交渉セ
シムルト同時ニ右交渉ノ決着ヲ容易ナラシムル爲在伊帝國大使ヲ
シテ本件ニ關スル希臘政府トノ交渉落着ニ至ル迄兎モ角平明丸カ
伊國ノ一港ニ入港スルコトヲ許容スル様伊國政府ニ交渉セシメタ
リ

在君府英佛伊三國高級委員モ右希臘政府ニ對スル我要求ヲ支持シ
希臘高級委員ニ對シ土耳其俘虜ノ無條件釋放ヲ求ムル所アリタル
カ希臘政府ハ前記「キリロス」號ニ對スル約束スラ實行ヲ肯セス
我要求ニ對シテ容易ニ同意スルノ模様ナキノミナラス一方伊太利

外 務 省

SP. 265

94

「希臘軍人」合シテ平明丸ヲ入港セシムルコトヲ躊躇スルノ色アリ
「ギリコス」艦ノ二隻ハ全無

(已號用紙)

政府亦自國ノ一港ニ平明丸ヲ入港セシムルコトヲ躊躇スルノ色アリ
リタリ

三、聯盟理事會行動

然ルニ本件交渉モ意外ニ長引キ船主ノ損失停廢ノ衛生狀態等ニ顧ミ急遽解決ヲ必要トスル事情アリタルヲ以テ在佛石井大使ノ稟議ニ基キ右聯合國高級委員及在君府帝國高級委員ノ對希臘交渉ヲ側面ヨリ援助スル意味ヲ以テ國際聯盟理事會ノ行動ヲ要求スルニ決シタルカ同理事會ハ萬國赤十字中央局ノ申出ニ依リ六月二十七日「ナンセン」博士ニ託スルニ理事會ノ名ニ於テ希臘政府ニ向ヒ第一平明丸ニアル負傷看護婦其ノ他赤十字關係一切ノ人員ノ放免第二其ノ他人員ヲ中立國ニ上陸セシムルコト若シ此ノ點實行不能ノ

外務省

SP. 265

95

昭和十一年八月六日
希臘政府ハ土耳古俘虜中戰闘參加可能者ト不可能者トヲ
區別シ不可能者ハ婦人小兒ト共ニ希臘船ヲ以テ直ニ君府ニ歸還セ
シメ可能者ハ希土間ノ戰闘終熄迄中立國乃至中立地帯ニ抑留スル
コトヲ承諾セシメ八月六日不具者婦人共三百九十二名ハ十一日君
府ニ歸着セリ一方健康ナル俘虜ハ之ヲ伊國ニ收容スルノ意嚮ニテ
國際聯盟側及帝國政府ヨリ同國政府ニ交渉スル所アリタルカ伊國
側ニ於テハ俘虜收容ニ付テハ承諾シタルモ之ニ伴フ費用一箇月七

(已號用紙)

場合ニハ「ミタイレーン」島ノ一點ニ上陸セシメ此ノ地點ヲ中立
地帯ト認メ俘虜ハ「ナンセン」博士ノ指定スル人ノ監督ニ委スル
コトニ付交渉セシムルコトヲ決議セリ

「ナンセン」博士ハ其ノ代表者ヲ「アデン」ニ派シ希臘政府ト交
渉ノ結果希臘政府ハ土耳古俘虜中戰闘參加可能者ト不可能者トヲ
區別シ不可能者ハ婦人小兒ト共ニ希臘船ヲ以テ直ニ君府ニ歸還セ
シメ可能者ハ希土間ノ戰闘終熄迄中立國乃至中立地帯ニ抑留スル
コトヲ承諾セシメ八月六日不具者婦人共三百九十二名ハ十一日君
府ニ歸着セリ一方健康ナル俘虜ハ之ヲ伊國ニ收容スルノ意嚮ニテ
國際聯盟側及帝國政府ヨリ同國政府ニ交渉スル所アリタルカ伊國
側ニ於テハ俘虜收容ニ付テハ承諾シタルモ之ニ伴フ費用一箇月七

外務省

SP. 265

96

聯合ニハ「シヤトル」ノ島ノ一隅ニ土留シシト出ル此島ニ中立

(日誌用紙)

(日誌用紙)

十萬「リラ」ハ果シテ土耳其ニ於テ負擔ノ責ヲ果シ得ヘキヤ否ヤ
ヲ懸念シ土耳其不支拂ノ場合ニ付聯盟理事會ニ於テ責任引受ノ保
障ヲ與ヘムコトヲ希望シ遂巡容易ニ決セス其ノ間平明丸船長ハ遂
ニ病死シ他ノ船員中ニモ數名ノ病人發生スル等同船乗組員ノ衛生
狀態不良トナリ此ノ上本件ノ解決遷延スルニ於テハ或ハ同船ニ於
テ土耳其俘虜ヲ伊國ニ輸送シ得サルコトナルヤモ計リ難キ處ア
リタルヲ以テ帝國政府ハ土耳其政府ニ懇談ノ上前記費用ノ前拂ヲ
承諾セシメタリ然レトモ伊國政府ハ依然トシテ費用ニ關シ確實ナ
ル保障ヲ得ムコトヲ希望シ「ナンセン」博士個人ノ保障若ハ財政
上極メテ信用シ難キ土耳其政府ノ聲明ノミニテハ満足セス只管國
際聯盟ノ保障ヲ得ムコトヲ主張シタルヲ以テ帝國政府ハ國際聯盟

外務省

SP. 265

97

(已號用紙)

六、事件落着

茲ニ於テ平明丸ハ十月十二日「ピンウス」港ヲ發シ「アシナラ」ニ至リ俘虜陸揚ヲ了シ次テ十九日「チュニス」ニ向ケ出發シ茲ニ事件發生以來七箇月ニ亘レル本件ハ無事解決ヲ告ケタリ

外務省

アムステルダム古ハ支那ノ對策ニ關シテハ、海軍増大ニ共ニ應命スル

(日 總 出 張)

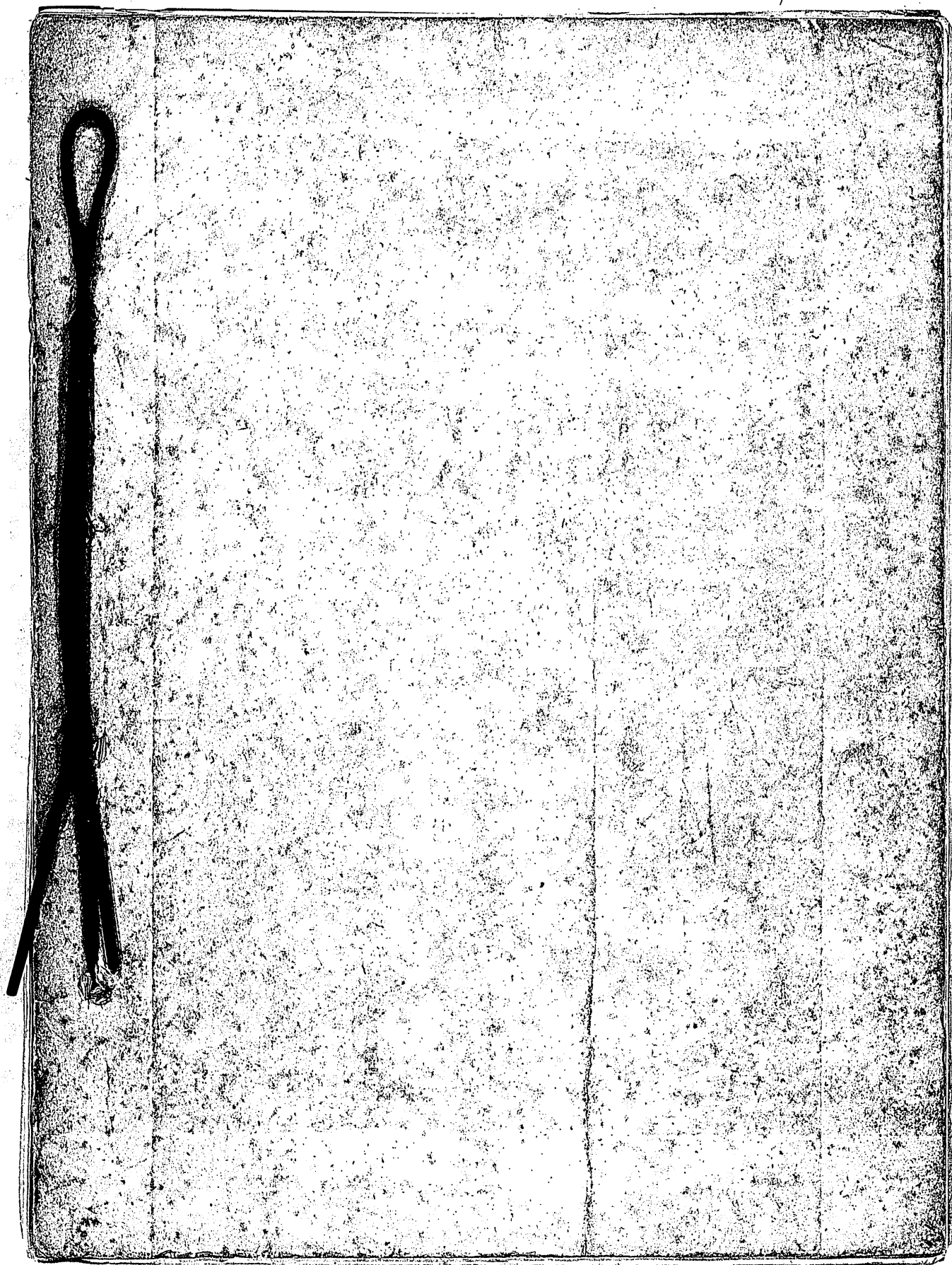
(已 號 用 紙)

勝田汽船會社ハ本事件ノ爲二十五萬千六百八十八圓十錢ニ上ル損
害ヲ被リタル旨ヲ述ベ政府ノ賠償ヲ請願シタルニ依リ閣議ニ於テ
同會所ノ立場ヲ諒トシ右金額ヲ交付スルコトナレリ

外
務
省

SP. 265

99



国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

議28-0270 <http://www.jacar.go.jp>